写野中心：赤経 18h05m 赤緯−24°00′　写野：3.4°×4.2°
2001年8月16日　ニュージーランド南島テカポ村
ペンタックス125SDP（12.5cmF6.4屈折 焦点距離800mm）
露出100分　エクタクロームE200　＋1/2増感

天体 種類	赤経（2000.0）赤緯	大きさ	距離（光年）	励起星
M20 散光星雲	18h02.6m −23°02′	18×17′	2200	HIP88333
M 8 散光星雲	18h03.8m −24°23′	44×26′	2500	NGC6530
M21 散開星団	18h04.6m −22°30′	13′	3000	
NGC6526 散光星雲	18h02.6m −23°35′	40′		HD164971
IC4685 散光星雲	18h09.3m −23°59′	10′		HIP88943
NGC6544 球状星団	18h07.3m −25°00′	9′		
NGC6530 散開星団	18h04.8m −24°20′	15′		

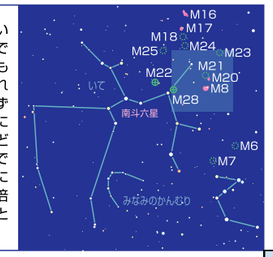
SkyShootingFile DVD-ROM

Sample PDF

SkyShootingFile ⑱ いて座の散光星雲M8・20

撮影・解説／山田啓作

明るい星雲なので導入は簡単だ。いて座の西を双眼鏡やファインダーでぐるぐる回せば入ってくる。それでもだめなら、さそりの頭のδ星を入れて、そのまま赤経を2時間ほど東にずらせばよい。これで、ファインダーにM8が捉えられないようなら、よほど条件の悪い空だ。私の行く富士山ではちょうど小田原の街明かりの上に位置して見えないことも多い。低倍のファインダーや双眼鏡なら、M8とM20が同一視野にとらえられる。



今月はやっと、天の川ぞいにやってきた。ハデさは全天でもトップの領域である。いて座は銀河系の中心方向であり、当然にぎやかな領域である。ここにはさまざまな散光星雲があるが、その中でも飛び切り大きいのがM8である。ちょうど遠浅の海岸の引き潮時に取り残された溜りを想像させることから、干潟（ラグーン）星雲と呼ばれる。これは肉眼でも見えるはずだが、最近の日本からは見られるところが限られる。南天に低く、どうしても南の街明かりの中に埋もれてしまう。200万歳と若い高温の散開星団に照らされた水素ガスの塊であり、これからも新しい星が生まれる現場でもある。M20も形のよい星雲だ。ハーシェルが三つに分かれているといったことから、三裂星雲と呼ばれる。この二つは中焦点距離でよい形に構図でき、これからのシーズンの人気領域となる。

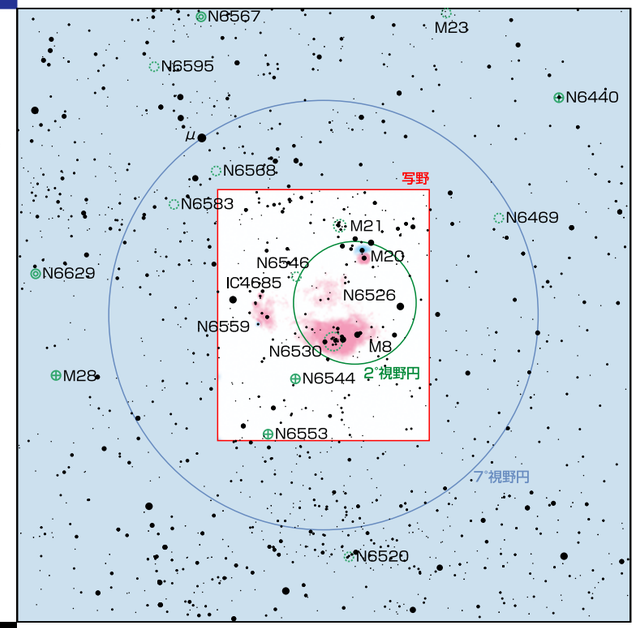
■ 眼視でのイメージ

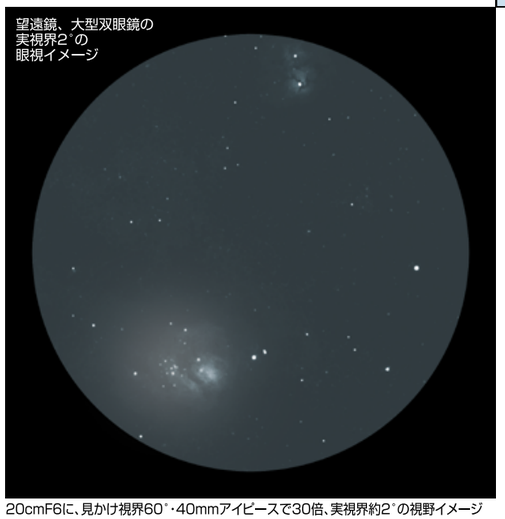
M8は低倍率で観よう。実視界2度くらいがよい。波を打ったようなガスの流れが見られる。一番明るいところからやや東の、散開星団NGC6530も同一視野に見える。このあたりまでガスの流れが見られるようなら、よい空である。M8から北に1.5度でM20が入ってくる。こちらはやや倍率の高い方が楽しめる。三裂の由来の暗い裂け目は小口径ではよく見えない。よい空と、20cm以上の口径が必要となる。しばらく見ていると、ガスの色の違いがわかるかもしれない。中心がピンクで周りが青という人がいたら、それは先入観である。何か違うといったところが正解だろう。

■ 写真でのイメージ

人気領域だけに、全てが完璧でないといけない。構図も最大限注意しよう。広がりのイメージ的な重心から、中心をやや東に振るのがよい。M8とM20の間の淡いNGC6526も写し取ろう。M42のようにM8の中心は適正露出では白く飛ぶことはない。適正露出でM8の中心までの描写も心がけたい。さらに東に広がるIC4685まで滑らかにつなげ、かつそこの青の成分にも気を配る。

M20は周りの青い広がりと、内部のピンクの対比を美しく。また、M8とM20の赤の色の違いも注意。M8はややオレンジがかったピンクに、M20は青がかったピンクに写る。今回はとくにM8の南に広がる、天の川の本体の表現にも留意した。写野内の球状星団NGC6544は恒星像と区別がつかない。





20cmF6に、見かけ視界60°・40mmアイピースで30倍、実視界約2°の視野イメージ

my 天文グッズ　天然冷蔵庫

今月は正確にはMyではない。この原稿を書いているころの山はまだ残雪がある。そんなときは、天然クーラーである。5月を過ぎての山の日中は強い日差しでどんどん気温が上がる。雪の穴にペットボトルを置いて、冷やす。こんなちょっとした非日常性がアウトドアの幸せである。残雪や雪渓でのオンザロックもいいが、残念ながら、われわれ天文屋が車で行く範囲の日本では無理だろう。

写真の中の缶はフィルム入れである。昼間の車中は気温が30℃を越えることもあるからだ。昨年の富士山は残雪が多く駐車場の両サイドは雪の壁であった。風除けと、冷蔵庫とかねて重宝した。今年はどうだろうか。